

## 特任助教（常勤）（金沢大学・ナノ生命科学研究所 柴田研究室）

### 機関名

金沢大学

### 機関または部署 URL

<http://nanolsi.kanazawa-u.ac.jp/>

### 部署名

ナノ生命科学研究所

### 機関種別

国立大学

### 求人内容

ナノ生命科学研究所において、「特任助教」として、以下に挙げる研究に取り組むことのできる優秀な研究者を募集します。

### 職務内容

柴田研究室は高速原子間力顕微鏡（高速 AFM）のバイオ応用研究に取り組み、以下に示す研究成果を出してきました。HP: <https://bioafminfi.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

### 代表的な論文

1. M. Shibata and H. Nishimasu *et al.*, “Real-space and real-time dynamics of CRISPR-Cas9 visualized by high-speed atomic force microscopy.” **Nat. Commun.** 8, 1430 (2017).
2. L. Puppulin *et al.*, “Dynamics of target DNA binding and cleavage by *Staphylococcus aureus* Cas9 as revealed by high-speed atomic force microscopy.” **ACS Nano**, 17, 4629-4641 (2023).
3. S. Tsujioka *et al.*, “Imaging single CaMKII holoenzymes at work by high-speed atomic force microscopy.” **Sci. Adv.** 9, eadh1069 (2023).
4. S. Morioka *et al.*, “High-speed atomic force microscopy reveals the nucleosome sliding and DNA unwrapping/wrapping dynamics of tail-less nucleosomes.” **Nano Lett.**, 24, 5246–5254 (2024).
5. A. Sumino *et al.*, “High-speed atomic force microscopy reveals fluctuations and dimer splitting of the N-terminal domain of GluA2 ionotropic glutamate receptor-auxiliary subunit complex.” **ACS Nano** 18, 25018-25035 (2024).

当研究室の特任助教として研究室に参加し、JST ERATO「豊田植物感覚プロジェクト」（2024年度に発足）[[https://www.jst.go.jp/erato/research\\_area/ongoing/jpmjer2403.html](https://www.jst.go.jp/erato/research_area/ongoing/jpmjer2403.html)]の研究に従事していただきます。具体的には、植物の接触・匂い感知および情報伝達システムに関して、生化学的手法や分子遺伝学的手法、タンパク質科学的手法などを用いて研究を行い、論文発表を行うことを職務内容とします。所属する金沢大学 NanoLSI は、WPI のサポートのもと、抜群の環境で

研究に集中できる研究所です。これまでの研究において、AFM の技術は必要としません。

#### 勤務地住所等

金沢大学ナノ生命科学研究所  
石川県金沢市角間町（角間キャンパス）

#### 募集人員

1 名

#### 着任時期

2025 年 10 月 1 日以降のできるだけ早い日

#### 研究分野

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 研究分野 生物系化学 Biological sciences<br>中区分 生物物理学関連 Biophysics-related   |
| 2 | 研究分野 生物系化学 Biological sciences<br>中区分 分子レベルから細胞レベルの生物学およびその関連分野<br>Biology at molecular to cellular levels, and related fields |

#### 職種

- |   |      |
|---|------|
| 1 | 助教相当 |
|---|------|

#### 勤務形態

常勤（任期あり）

#### 応募資格

- (1) 英語でのコミュニケーション能力を有し、研究活動が行えること。
- (2) 基礎的な生物学の研究実績を有すること。特に、生化学に関して豊富な経験と知識を有することが望まれる。
- (3) 博士の学位を有していること（着任までの取得見込も含む）

#### 待遇

##### <職名>

特任助教（常勤）

##### <雇用期間>

2025 年 10 月 1 日以降のできるだけ早い日～2030 年 3 月 31 日まで（年度毎更新）  
※雇用開始日については応相談。雇用期間満了後、業績により更新することがある。

##### <勤務形態>

国立大学法人金沢大学職員就業規則の労働時間、休日及び休暇等に関する規程による。

※専門業務型裁量労働制適用

<給与>

年俸換算：本給 480 万円

<社会保険等>

国家公務員共済組合，雇用保険，労働者災害補償保険に加入

上記以外の勤務条件については，国立大学法人金沢大学職員就業規則等によります（以下の URL をご覧ください）。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/administration/regulation/rules>

募集期間

2025 年 5 月 30 日 必着（ただし，応募者があり次第随時選考を実施し，公募開始後 1 カ月を経過した時点で適任者が見つかる場合は，公募を打ち切ります。）

応募・選考・結果通知・連絡先 [応募方法(書類送付先も含む)]

<応募書類>

- ①履歴書（写真添付，現住所，連絡先[電話番号，メールアドレス]，学歴，研究歴，職歴，所属学会，資格，賞罰）
- ②研究業績（学位論文，査読付論文，学会発表，総説・解説，著書，特許等に分類し，共著者名，発表機関，巻（号），最初と最後のページ，発表年を記載する）
- ③主要論文の別刷（5 編以内，コピー可）
- ④科学研究費補助金，受託研究，共同研究，寄附金などの外部資金の獲得状況
- ⑤これまでの研究活動および教育活動とその状況（A4 サイズで 2 ページ程度）
- ⑥研究に対する抱負（A4 サイズで 1 ページ程度）
- ⑤応募者について参考意見を伺える研究者（2 名以上）の氏名，所属・役職，及び連絡先

応募書類は，E-mail 又は郵送にて送付してください。

E-mail の場合，5MB を超えるファイルは受け取れないため，別途アップローダーを利用してください。

E-mail で応募書類を送る場合は，タイトルに「特任助教公募書類（柴田研究室公募分）」と入力願います。

応募書類を郵送で送る場合は，封筒表面に「特任助教公募書類（柴田研究室公募分）」と朱書きの上，簡易書留にて郵送してください。

なお，応募書類は原則として返却しません。

<応募書類送付先>

〒920-1192 石川県金沢市角間町

金沢大学ナノ生命科学研究所事務室

Tel:076-234-4550

Email: nanolsi-jobs@adm.kanazawa-u.ac.jp

[選考内容(選考方法, 採否の決定), 結果通知方法]

書類選考及び面接

(書類選考後, 随時面接の必要な方に連絡いたします。)

面接に伴う交通費等選考にかかる費用は自己負担となります。

[連絡先(担当者所属, 役職, 氏名, e-mail, 電話番号)] ※重要

業務内容については, 下記宛にお問い合わせください。

金沢大学ナノ生命科学研究所 教授 柴田 幹大

Tel:076-264-5927

Email: msshibata@staff.kanazawa-u.ac.jp

就業規則や事務手続きについては, 下記宛にお問い合わせください。

金沢大学ナノ生命科学研究所事務室

Tel: 076-234-4550

Email: nanolsi-jobs@adm.kanazawa-u.ac.jp

備考

(1)就業規則については, 下記 URL をご覧ください。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/administration/regulation/rules>

(2) 金沢大学では, ダイバーシティ研究教育環境の整備を推進しています。詳しくは下記 URL をご覧ください。

<https://ipdi.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

(3)金沢大学ナノ生命科学研究所では, 多くの女性研究者が活躍しています。詳しくは下記の URL をご覧ください。

<https://nanolsi.kanazawa-u.ac.jp/research/diversity/>

(4) WPI ナノ生命科学研究所では, 文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム拠点として英語によるサポートを行っており, 研究者のうち約 35%が海外研究者です。